

## 松農会入会式 祝辞

日増しに春の訪れを感じることができる時季となりました。先ほどは松農会副会長 桑原 克夫 様より、明日卒業式を迎える 157 名の生徒に対しまして温かい励ましのお言葉と、卒業生会入会の歓迎のご挨拶をいただき、ありがとうございます。学校を代表して御礼申し上げます。

さて、松農会に入会されます皆さん、明治 33 年の開校以来、本年度で 119 年を迎えている松江農林高校は、昨年度の卒業生で 2 万人を超え、県内を中心に各分野で活躍されている多くの卒業生を輩出しています。皆さんも本校の卒業生としてそれぞれの分野で活躍されますよう期待しています。

今月 11 日付けの山陰中央新報に、『外国人労働者の受け入れ拡大で、山陰両県の市町村が外国人の活躍を期待する分野（2 つまで）は「介護」が最多の 66%（25 自治体）だった。』という記事が目にとまりました。この介護人材を求める自治体が 66% というのは、全国の市町村（56%）を上回る比率で、高齢化が進み、慢性的な人手不足に悩む島根県の現場の期待感を示したものであると記載されていました。同様に、次いで外国人の活躍を期待する分野が「農業・漁業」で 55%（21 自治体）、「建設」が 18%（7 自治体）、「外食・宿泊」が 16%（6 自治体）と続いていました。

全国的に見ても介護や農業分野、建設、外食、食品製造の人手不足が進み、山陰両県でもこれらの分野の人手不足が深刻化する中、政府の外国人労働者受け入れ拡大による外国人労働者に対する期待はあるものの、各自治体等の受け入れ体制が十分整っていないこともあり、見切り発車的な国の対応に不安の声もあるといった内容の記事でした。

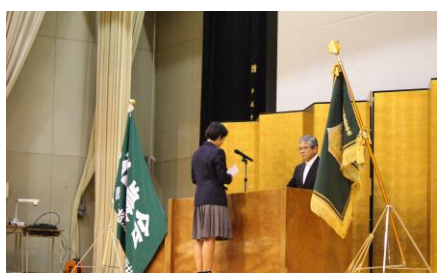
皆さんは本校で、農業・農業土木・食品・地域の産業・福祉などを学んできました。このことは、これから不足するであろう人材を外国人に頼っていかうと考えている分野に飛び込んでいくことにもなります。皆さんの力は、この地域で必要とされる人材であると共に、これからの共生社会をどのように作っていくかということにも皆さんの力量が問われるような社会になると予想されます。

予測のつかない社会だといわれていますが、どのような社会になったとしても人とのつながりや課題を解決して前に進もうとする力は必要となってきます。みなさん、ぜひこれからの社会を強くたくましく生きてください。

卒業した学校のことを“母校”と呼びます。自分を育ててくれた母なる学校という意味なのだそうですが、これまで赤ん坊が母親の胎内で守られている環境と同じように、学校という守られた世界を、“母”ということばであらわしているのかもしれませんが。本校を母校と呼ぶ人が 2 万人以上いて、その人たちはいつまでも母校のことを気にかけてくれています。皆さんもその一員になるということです。いつまでも高校時代の思い出や仲間を大切にしてほしいと思いますし、年代を超えた卒業生同士のつながりも大切にしてほしいと思います。

最後になりますが、本校の校訓にあるように、松江農林高校の生徒は、飾り気がなくまじめで、健康で芯がしっかりしている。新しいことに挑戦し、自らの道を切り開こうとしている。仲間と協力してボランティア精神をもって地域の役に立とうとする、といわれています。これは将来どんな生き方をしようとも大事なことだと思います。どうかいつまでも松農らしさを忘れずに、それぞれの道で活躍してください。

今後の皆さんのご活躍とご健勝をお祈りし、松農会入会式にあたっての祝辞と致します。



入会式後、「しまねのネタ本」プレゼントとプレゼントがありました